

小規模校での取り組み

1 遠隔授業について

○山形県における遠隔授業の研究

小規模校等において、進路希望に応じた多様な教科・科目の開設や習熟度別指導等による学習機会の充実を図るため、遠隔授業の試行と研究を行っている。

令和5年度は鶴岡中央、北村山、高畠高校を研究校とし、学校間での配信を実施した。さらに、令和6年度は対象校を左沢、荒砥、遊佐高校とし、配信拠点からの配信を試行している。



遠隔授業の研究（モデル校での配信試験）

2 小規模校による教育の充実に向けた取組み

(1) 遊佐高校 学校設定科目「デュアル実践」

将来地域の一員として、自らの仕事にしっかり取り組みながら、地域が抱える諸課題にも目を向け、自ら考えながら行動できる人材の育成に向け、生徒がより積極的に地域と関わり、実際に「働く大人」と接して、働くことの楽しさや厳しさ、やりがいなどを体験的に学ぶ機会を学ぶ為、学校設定科目「デュアル実践」を開設している。

この科目では、「地域が一体となって生徒を育てる教育」の一環として、地域共生系列の2年次生が地元地域の企業・団体及び遊佐町役場、遊佐町商工会の協力を得ながら、半年間にわたる長期のインターンシップを行い、その成果を生徒自身が、地元の協力者の前で行っている。



地域と連携した長期インターンシップの実施



地域の方を交えての成果発表会

(2) 小国高校 「高校魅力化プロジェクト」

小国高校では、地域と連携した高校魅力化プロジェクトにより教育の充実を図っている。

○ 白い森未来探究学（総合的な探究の時間）

主体的かつ探究的な活動を通し他者と協働し、広い視野を持ち、社会の状況変化に応じ柔軟に、前向きに再構築できる能力の育成を目指し、1学年「地域文化学」、2学年「地域実践学」、3学年「地域構想学」により地域をフィールドとして学習している。

○ 白い森おぐに小国町保小中高一貫教育（国際・情報教育の推進）

保育園から高校までの、学びの系統性と連続性を重視した一貫教育。高校では、オンラインによる国際交流、イースト高校（コロラド州）への短期留学など様々なプログラムを通して語学力をより高めるとともに、国際理解を深めている。

○ 全国高等学校小規模校サミット

全国の小規模高校の生徒が集まり、各校の特色ある取り組みを紹介し合い、意見交換を行うことで、高校生としての行動指針を考えるとともに、人間関係構築力を向上させ、将来地域を支える資質を育むことを目的とした活動を展開している。



全国小規模校サミットの様子